

研究課題名	大腿骨近位部骨折術後患者における入院中転倒と退院後1年以内の転倒との関連 — 後ろ向きコホート研究 —
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	<p>①研究の目的</p> <p>この研究では、太ももの付け根の骨折（大腿骨近位部骨折）で手術を受けた患者さんのうち、入院中に転倒した方が、退院後1年間に再び転倒しやすいかどうかを調べることを目的としています。入院中に転倒する患者さんは、もともと転倒しやすい原因を持っている可能性があり、退院後の生活での転倒にも影響があると考えられます。そこで、入院中に転倒した方と転倒していない方を比較することで、転倒のリスク因子や傾向を明らかにすることを目指しています。</p> <p>②研究の内容</p> <p>当院で太ももの付け根の骨折（大腿骨近位部骨折）の手術を受けた患者さんの過去のカルテや血液検査の記録を利用して解析します。調べる内容には、年齢、性別、体格、認知機能、骨折する前の歩行状態、手術の方法や入院期間、入院中の転倒の有無、退院後の転倒状況（郵送調査で確認）などがあります。この研究では新しい検査や治療は行いません。</p> <p>③研究対象者に予想される利益</p> <p>研究対象となることで、個別の治療や診療内容が変わることはありません。直接的な診療上、経済上の利益はありません。しかし、研究の成果により、入院中転倒の影響やリスク因子を理解することができ、将来的に退院後の転倒予防やリハビリテーションの充実に役立つ知見が得られる可能性があります。</p> <p>④参加の自由</p> <p>本研究は過去の診療データを用いた解析です。ご本人が参加を希望されない場合は、研究データから除外することが可能です。研究への参加を拒否しても、診療や退院後の生活指導などに不利益はありません。</p>
研究対象者	2018年11月から2024年7月の間にベルランド総合病院整形外科に太ももの付け根の骨折（大腿骨近位部骨折）で入院し、手術を受けられた方です。
利用又は提供する試料・情報の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年齢</li> <li>2. 性別</li> <li>3. 身長</li> <li>4. 体重</li> <li>5. 認知機能（HDS-Rという評価方法で算出された点数）</li> <li>6. 手術方法（術式）</li> <li>7. 骨折前の居住場所（自宅、施設など）</li> <li>8. 歩行能力（骨折前、術後7日目、退院時：主に使用している歩行支持物の種類）</li> <li>9. 過去に反対側の太ももの付け根の骨折がないか</li> <li>10. ふくらはぎの太さ（下腿最大周径；骨折していない側のふくらはぎで測定）</li> <li>11. 握る力（握力；左右両方の握力の最も強かった結果を使用）</li> <li>12. 退院してから1年間に転倒したかどうか</li> </ol>
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2026年4月30日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院理学療法室のみで行います
試料・情報の管理につ	ベルランド総合病院 理学療法室 竹田 瑠花

いて責任を有する者の 氏名又は機関の名称	
研究に協力したくない 場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはありません
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 理学療法室 竹田 瑠花 メールアドレス : riha@bh.seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL : 072-234-2001 (代)